

～FCC環境委員からのお知らせ～

弊社ではエコキャップ活動を実施しております。



ペットボトルのキャップを集めて、専門の回収業者に届ける事により、キャップ800個につき1本のポリオワクチンと交換できます。



ペットボトルのキャップに使われている材質は主にPP（ポリプロピレン）で、上質な資源になるため、そこから出た利益を病気などで苦しむ世界中の子供達のワクチン購入資金に充てられるのです。

また、ただゴミとして捨ててしまえば、焼却処分の場合はキャップ400個で3,150グラムの二酸化炭素を排出する事になります。

弊社では皆様のご協力もあり、去年一年間で39,040個、約48人分のワクチン交換量を集めました。



まだまだ小さな活動ですが、今後とも弊社ではエコキャップの収集を行っていきます。

もし、お手元にペットボトルのキャップがあるようでしたら、施工に伺った際に弊社スタッフがお預かりさせていただきます。

ぜひ、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



食中毒を予防しましょう！



1. サルモネラ菌での食中毒の大半が食品の加熱不足です。肉・魚などはなるべく生食を避け十分に加熱しましょう。
2. サラダなど、生で食べる野菜は、十分に洗いましょ。 (洗剤を用いる場合もあります)
3. まな板、包丁なども常に清潔にしておきましょう。
4. ネズミからの感染を防ぐ為、食品は常に密閉保管しましょう。
5. あまり大量に作り置きしないで、その日に作ったものはその日に食べる作り方をしましょう。

※調理方法や保管方法に気をつけても、まな板が汚れていたのではまったくの無意味です。
まな板は…

1. 漂白剤（除菌液）を上の中量垂らし、フライパン返しなどで、まんべんなく塗りましょう。
2. 塗り終わったら、上に濡らしたタオルなどをかぶせましょう。
3. 除菌するときだけでなく、常にまな板はきれいにしましょう（きれいなタワシを使い洗剤で洗いましょ）。

商品紹介

まな板・ダスターの除菌漂白には、この商品！！

商品名：テルロンブリーチミニ（5ℓ）
価格：¥9,387-（1ケース/3本入り）



ご注文は、ホームページ、又はお電話にて承っております。

1、2位を争う食中毒の原因菌『サルモネラ属菌』

サルモネラ食中毒は典型的な感染型食中毒です。

日本における食中毒発生件数の2～3割が、サルモネラ属菌による感染とされています。その特徴は、鶏卵を使用した菓子による大規模な感染が多くみられる事が挙げられます。

サルモネラ属菌はネズミの媒介による感染が多数を占める為、近年のクマネズミの増殖により問題となっています。また、鶏肉や鶏卵を介した感染も増加傾向にあります。



鶏卵を介したサルモネラ汚染防止には鶏卵の洗浄が有効とされていました。

近年では卵殻の外部からの汚染だけではなく、菌がニワトリの卵巣や卵管に寄生し、卵黄に細胞内寄生し、その外側にある卵白などが保菌する事により、鶏卵そのものが汚染している事が知られるようになりました。

その他、ミドリガメやトカゲ等の爬虫類のペットからの感染も報告されています。



主な症状は嘔吐、水様性下痢などの消化器症状、発熱（高熱）などで、抵抗力のない人は菌血症を起こし重症化することがあります。潜伏期間は平均12時間程ですが、場合により3～4日程潜伏する事もあります。

ネズミでお困りのお客様は…

食中毒を媒介するネズミは衛生面における最大の問題児。早期の駆除が必要です。

弊社では、ネズミの駆除も行っておりますので、お気軽にご相談下さい。

※ホームページ上でも、ご紹介しております。

ビタミンCとアスコルビナーゼ



私達の健康を様々な方向からサポートしてくれる『ビタミンC』。

白血球の動きを高め、免疫力を向上させる為、風邪の予防や回復に大きく貢献します。

胃がんや肝臓がんの原因と考えられている『ニトロソアミン』の生成を抑制し、がんの予防にも役立っています。

また、ストレス社会と揶揄される事もある現代に欠かせない栄養素として注目を浴びています。



私達はストレスを感じると抗ストレスホルモンの『アドレナリン』が分泌されますが、ビタミンCが不足するとアドレナリンが十分に生成されず、ストレスに負けてしまいます。

その重要なビタミンCを、果たして私達は効果的に摂取できているのでしょうか？

☆大根と人参☆

大根と人参と一緒にすりおろした見た目の美しい『もみじおろし』。でも、実はこの組み合わせは、栄養の観点から見るとお勧めできません。



それは、人参には『アスコルビナーゼ』と言う物質が含まれており、これが大根の『ビタミンC』を破壊してしまうからです。

アスコルビナーゼは人参の他に、きゅうりやカリフラワー、キャベツ、かぼちゃ、春菊、バナナ、りんご等に含まれます。



しかし、そんなアスコルビナーゼにも弱点はあります。加熱する、或いは発酵させると酵素の作用が無くなる為、ビタミンCを破壊する事も無くなります。

また、酢や柑橘系のオレンジ等を混ぜるとビタミンCの破壊を抑える事ができます。



サラダを作る時には、下ゆでをしたり、柑橘系の果物を併用したりといった対策してみても如何でしょうか？



FCC News

2009年3月号

NO.0061



- 目次 -

サルモネラ属菌

FCC環境委員からのお知らせ

ビタミンCとアスコルビナーゼ

季節のムシ暦 ⑩
環境の都市化がもたらせた侵入害虫

環境コラム

地球の環境衛生を創造する
株式会社 FCC
fine, comfortable & creative

株式会社 FCC

住所：神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

環境の都市化がもたらせた侵入害虫

どうも世中が変だ！それは、地球環境が少しずつ劣化している事と関連が無いとは、断言出来ないのかもしれない。

昔は、それ程、問題視されてなかった、ただの虫が、今では、「不快虫」など云って騒がれている。この季節、部屋の中を元気に飛びまわる虫はいないが、日当りの良い部屋の窓枠に、奇妙な小さな虫の群を目にする事がある。

この虫は「カイガラムシ」と称する虫の一群で、生活の場合は、樹木である。それが、公園の樹木、街路樹および庭木に目立つようになった。

一般に、カイガラムシは、環境の劣化が進み、樹勢が衰えて来ると発生し易くなると云われている。したがって、この虫が多発すると云う事は、自然環境が徐々に悪くなっている事の現れと云える。

この時期、室内に侵入して来る代表的なカイガラムシは、オオワラジカイガラムシと云う種類である。

カイガラムシとはどんな虫？

カイガラムシは、分類的には、生活害虫としてよく知られているトコジラミ ナンキンムシとも云う）と同じ、半翅目と云うグループに属する虫である。オオワラジカイガラムシの主要な寄主植物は、ブナ科植物のカシ、シイ、マテバシイである。

これらに寄生し、樹液を吸汁して生活するが、冬季に移動する性質があって、これが、冬の虫として目立った訳である。

カイガラムシの雌（メス）の成虫は、体長が10mm前後で大型種である。体表面は、白い粉状の蠟質分泌物で覆われている。

このカイガラムシは、メスとオスとは形状も生活スタイルも異なる。メスは蛹の時期が無く、オスは蛹を経て成虫となる。

面白いのは、オス成虫には、「口」が無く、摂食もせずに交尾を終ると死んでしまうことである。ただ、生殖のためにだけ、発生すると云う状況である。

メスは3回脱皮をして、成虫となり樹液を吸って生活する。公園のシイやマテバシイには多数寄生していて、虫の排泄する糞に「スズ病菌」が繁殖するために、寄主の樹木の枝や葉が、真黒になり美観を損ねる。

メスは、5月から6月頃に寄主植物の樹皮の裂目や落葉の間に、線状の「卵のう」を作り、この中に100個前後の卵を産みつける。

この卵は、そのまま夏を越し、12月から1月頃にかけて孵化して樹液を吸う。こうした訳か、冬の間は樹木の幹の根本に集り集団を作る。

これが、成長すると共に大移動を開始し、家屋内に侵入したり、壁面を覆うことになる。時には、洗濯物や布団などに群がる場合もあって、迷惑な虫である。

なお、屋内侵入の被害のあった周辺の樹木を調べた所、多い木では、数万匹を数えたと云う。では、その対策はどうするのだが、家屋の外側は、殺虫剤散布によく駆除も可能だが、今日的ではない。室内に侵入したものには、掃除機による吸引、除去もひとつの方法である。

しかし、この様な状況に至ったのは、環境の劣化が要因のひとつなので、侵入は、人災と反省すべきであろう。

大切なのは、地道な植栽管理で、健康な樹木が育つ環境づくりである。季節の虫の行動を注意深く観察すると色々な情報を提供してくれる。時ならぬ、オオワラジカイガラムシの侵入は、環境問題のシグナルである。



【写真説明】

このグロテスクなオオワラジカイガラムシは、迷惑虫というよりも環境問題のシグナルだ

環境「リラム

薪ストーブの効果

二酸化炭素削減の為の環境省主催の活動「トップ温暖化『一村一品』大作戦全国大会」の表彰式が行われました。

最優秀賞には京都府代表の雲ヶ畑中学校が受賞しました。

その活動内容とは・・・ 校内の全ての石油ストーブを、薪ストーブに切り替える」というものでした。薪ストーブと言いますと、如何にも時代遅れな気がしますが、最近の東情勢などの不安定化により石油が高騰した経緯から、石油ストーブの暖房費を抑える為に、北海道や東北を中心に薪ストーブの需要が急増しています。

ストーブというと石油（灯油）ストーブかFF式（ガス）ストーブの2種類が現在一般的です。しかし、現在、薪ストーブが急激にそのシェアを広げているのです。

☆薪ストーブは何がいいのか？問題点は？

まず、一番に挙げられるのが、その省エネ効果です。薪ストーブは将来枯渇する事が確実視されている石油や灯油を使用せず、通常使用される事のない自然の木材を燃料にしています。その為、石油や灯油を燃やして暖めた場合に発生する二酸化炭素の削減にも大いに役立ちます。

それでは、その火力はどうでしょう？薪ストーブの炎からは遠赤外線が放出されている為、身体の芯まで温まりますので、冬の暖房器具としても優秀です。

反面、その原料を集める作業は、大変です。薪ストーブの燃料は薪です。近くの農業を営んでいる方や木材屋さん等から薪を収集し、それを使える長さに切る必要があります。生木は燃えない為、その後乾燥させてから、ようやく薪ストーブの燃料として使えるようになります。

また、薪ストーブは煙突を必要とする為、年に一回煙突に溜まるススの掃除が必要となります。その他、定期的に保守点検を行う必要があります。この、安全の為のメンテナンスが大変です。



～暖炉の火をみると落ち着く～

余談ですが、初対面の二人が会話をする場合、暖炉がある・なしの条件により、どの様な影響を及ぼすのでしょうか？

その実験を行った結果、暖炉の火にはコミュニケーションを促進する効果がある事が確認されたそうです。

詳しく見てみると、『リラックスできる』『癒される』『会話の相手が自分に似ていると感じる』『二人の距離が縮まる』『会話中に暖炉を見る回数が多い』等の、効果があったとの事です。個人差はありますが、火を見ると落ち着くと感じる人が多いようです。

また、暖炉のように視線を外せるものがあると、自然な会話が出来るようです。これは、カウンセラーが患者の正面に座らない事や、カウンセリングルームに視線を外しやすいように小物を配置するのと同じ理論なのでしょう。

管理は大変ですが、エコな癒しの空間の為に暖炉風な薪ストーブを導入するのも面白いのではないのでしょうか？

